みなおと

No. 58

秋田大学教育文化学部・教育学研究科情報誌 2024. 3.8

＜卒業特集＞

卒業生・修了生の皆様へ

教育文化学部長　上田　晴彦

卒業生・修了生の皆様，おめでとうございます。教職員を代表いたしまして，心よりお祝いを申し上げます。

今年度学部を卒業される皆様は大学生活の始まりからの３年間を，また大学院を修了される皆様は大学院生活の最初の年度を，コロナ禍の下で過ごさなくてはなりませんでした。そのため対面授業を通して教員とつながったり，サークル活動を通して友人をつくったりすることが難しい等，苦労をされたと思います。我々も初めての経験でしたので，いろいろ手は尽くしたものの十分な対応ができたとは言い難く，とても申し訳なく思っております。

今年度は新型コロナウィルスが 5 類へ移行されたことにより，以前のような賑わいがキャンパス内にも戻ってきました。そのため今年度はアフターコロナの最初の年と言えると思いますが，アフターコロナの世界はビフォーコロナの世界とは少し異なっていると感じます。オンライン授業の多くは対面授業に戻りましたが，受講生の便宜を考慮に入れて一部はオンデマンド授業に移行しました。また働き方改革にあわせて対面会議よりもオンライン会議のほうが多くなりました。さらに最近では生成系 AI の大きな進歩が，大学の教育と研究への大きなインパクトになりつつあります。

オンデマンド授業，オンライン会議，生成系 AI などは全て ICT 活用に関連したものです。新型コロナウィルスほど，ICT の力を思い知らせてくれたものはありませんでした。皆さんはアフターコロナの第 1 期生となりますが，これから社会を担っていく人々には ICT を活用する力が必修だと思います。秋田大学での学生生活を基に，ICT を積極的に活用し，世の中を変える人材となられることを期待しています。最後になりましたが，皆様が今後，多方面でご活躍されますことを心より祈念して，お祝いの言葉とさせていただきます。

ご卒業・ご修了を祝して

秋田大学教育文化学部同窓会
「旭水会」会長　千葉　昭

秋田大学の「学位記」を胸に、思い出多い学び舎を巣立つ卒業生・修了生の皆様の晴れの門出を心からお祝い申し上げます。『ご卒業・ご修了おめでとうございます。』

令和２年（２０２０）４月、新型コロナウイルス感染拡大のため異例の入学式が中止になり、大学構内は立ち入り禁止状態で新年度の授業がいつ、どこで、どのような形で始まるのか先の見えない大学生活のスタートだったと思います。

希望に胸躍らせ周囲から祝福されての大学生活のはずが、喜びを味わうこともなく不安と戸惑いの連続だったことでしょう。

長い期間、授業はＺｏｏｍやＯＮ‐LINE などでの遠隔授業が大半で、人との触れ合う機会がほとんど持てない状況が続き、楽しみにしていたサークル活動やアルバイトも制約され、また、遠距離移動も思うようにできず、教育実習や就活のためのインターンシップも制約されたことと思います。

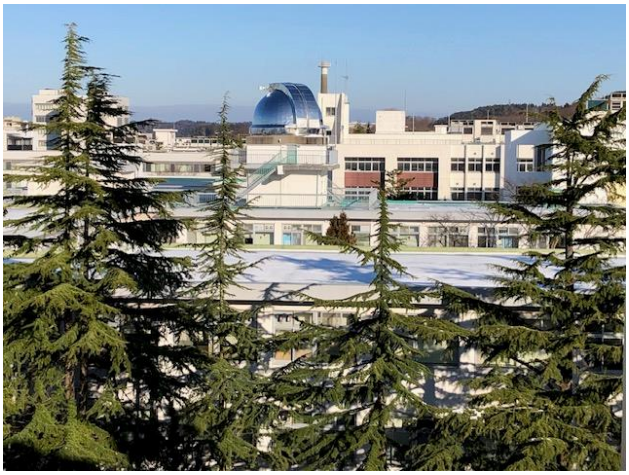
令和５年（２０２３）５月、やっと新型コロナウイルス感染症が２類から５類に移行し、大学祭も前年から復活し授業も対面になり友との触れ合い等身近な交流やフイールドワークも可能になり、キャンパスにも本来の笑顔と語らいの場が見られるようになりました。

しかし、社会は大きく変化し、混沌としています。デジタル化の急速な進展と同時にリモートワークによる働き方改革や学校でのＧＩＧＡスクール構想への取組、ＡＩ・ChatＧＰＴ活用等による社会的・道徳的規範など課題も多く見られます。社会の波に流されることなく常に自己研鑽に励み個々の目標に向かって挑戦続けて欲しいものです。

教育文化学部同窓会「旭水会」は、学校教育課程・地域文化学科・教職大学院の同窓の仲間たちの会です。現在会員は７千人、県内に十の支部と県外にも東京・千葉に支部があり、国内はもとより外国でも活躍しています。各支部では、毎年５月頃に総会があり新入会員歓迎会を実施しています。皆さんも是非各勤務地の支部総会に出席し、新風を吹き込むと同時に会員相互の親睦・交流を図って頂ければ幸いです。各支部では、新入会員の皆様を心からお待ちしております。

終わりになりましたが、改めまして皆様方の晴れの門出を祝し、あすからの新天地でのご活躍を祈念いたしております。

２０２４年３月吉日



大学生活での学び

教育実践コース４年次　仁村真由香

卒業が間近になり、残り少ない大学生活を過ごしている今日、４年間を振り返ると、秋田大学での多くの貴重な経験を思い出すことができます。なかでも、学業と課外活動の両方に精を出すことは、難しく、しかしとても楽しいものでした。

私は教員採用試験を大学推薦特別選考枠で受験しました。受験を志したのは、3年生の 12 月です。将来に悩んでいたその頃、就職に関する情報を発信している就職情報室という場所を訪れました。そこで知ったのは、推薦は秋田県の小学校教諭を目指したいという強い思いがあるなら、誰でも受けることができるということ。先輩や情報室職員の方々の言葉で、校内選考を受けることを決めました。小論文を書いたり、面接の練習をしたり…友人と切磋琢磨し、忙しく過ごした試験対策の日々は、とても充実していました。無事合格することができたのは、支えてくれた家族、先生方、情報室の職員の皆さん、そして、一緒に試験対策をしてくれた友人たちのおかげです。ありがとうございました。後輩の皆さんも、弱みを見せ合いながら、ともに助け合える仲間を見つけて学んでほしいと思います。

課外活動では、秋田大学吹奏楽団に所属し、コンクールや定期演奏会などの演奏の機会を通して、音楽の楽しさを実感してきました。特に印象に残っているのは、４年生のコンクールです。採用試験の勉強を進めながらのサークルへの参加は、とても体力を使うものでした。しかし、外部の先生のご指導や団員の努力の成果のおかげで、９年ぶりの東北大会銀賞を受賞することができました。そして結果だけではなく、狭いサークル棟のリズム室で、皆と音楽を１つにまとめていった時間が、何より大切な大学生活の思い出になりました。教員採用試験２次試験１週間前の東北大会（泊り）、卒業研究論文提出の次の日曜、発表の前日の三種町演奏会など、タイトなスケジュールでも、「行きたい！」と思えるサークルに入った当時１年生の私は本当に偉いと思います。そんな充実した課外活動を成り立たせてくれた同期や後輩にも、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとう。

私は大学生活を通して、仲間がいることの尊さを感じました。学業と課外活動の両立なんて、支えてくれる人がいなければできるわけがありません。周りに人がいて初めていえることですが、問題は誰かと共有すること、問題がなくても、ふとしたときに人に会いに行くことが大切です。今後は、大学生活以上に多くの課題が一斉に降りかかってくるかもしれません。でも、自分は一人じゃないということを忘れず、同じ目的を持った仲間を探すことから始めていきたいと思います。

大学生活を振り返って

英語教育コース４年次　近藤聖眞

私たちの大学生活はコロナ禍から始まりました。右も左もわからないまま、入学式もなくなり、ゴールデンウィークが明けたころからオンラインで授業が始まりました。その頃は家で授業が受けられるのは楽で良いと感じていましたが、今になって思うと、あまり学んだことが頭に入ってなかったように思います。グループ等で話し合うこともありましたが、画面上では相手とのやり取りはとても難しく感じていました。課外活動も制限され、私の所属する吹奏楽団も幾度となく活動が停止され、多くの演奏の機会も失われていきました。

しかし、コロナ禍を経たからこそ、得ることができたこともありました。オンライン授業の利点や欠点を体感できたのは、成果だと思っています。思うように生活ができず、苦しい時期ではありましたが、貴重な経験として今後に繋げていきたいと思います。

また、大学生活で大きかった出来事は実習でした。三度の教育実習に加え、教育実地研究、介護等体験、1日実習とたくさんの実習を経験しました。大学の授業はもちろんとても勉強になることが多く、知識をつけて実習に臨んだつもりでしたが、やはり実践ではなかなかうまくいきませんでした。思い通りにいかず、くじけそうになった時に指導していただいた先生方は、未熟な授業に多くの助言をするだけではなく、良かった面を必ず見つけて褒めてくださいました。先生方の姿からも学ぶことがたくさんあり、教職への思いがより強くなっていきました。

実習で関わった子どもたちとも最初はどう接したらよいか探り探りでしたが、日数を重ねていくにつれ、徐々に打ち解けていきました。子どもたちの前では明るく振る舞っていましたが、実習が終わってから数日間はまた子どもたちに会いたくて気が抜けてしまうほど、楽しい思い出でいっぱいでした。家に帰ってからも翌日の授業のことを考えて気が休まらなかったり、学校でも１日中子どもたちのことを考えて過ごしていたり、授業づくりや生徒指導といった教師という仕事の大変さを多く実感した教育実習でしたが、それ以上に楽しい思い出がたくさんでき、とても実りのある実習となりました。

４年間様々な出来事を経て、私は４月から教職大学院に進学することが決定しています。もう２年この秋田大学で学ぶことになります。今だからこそできることを大切に生活していきたいと思っています。

最後になりますが、大学時代に関わっていただいた全ての皆さまに感謝しています。４年間本当にありがとうございました。

スポーツ実技が遠隔授業だった幻の代が卒業する話

特別支援教育コース 4 年次　大滝佳奈

在学生の皆さんは、スポーツ実技を zoom で行う光景を想像できるでしょうか？準備運動を zoom で繋ぎ、各自でランニングをして、Nike アプリに記録し、再度 zoom で締めるというだいぶシュールな 1 年生の授業が存在したコロナ時代です。

私からは、教員採用試験の試験対策についてお話ししたいと思います。多くの人は、教職の自主ゼミというものを受講しており、採用試験に関することを学ぶことができます。…と言ってはいますが、私は自主ゼミを受講しませんでした。人それぞれに合った学習方法があると思いますので、その方法を見つけられることが大切だと思います。

参考程度に私の勉強方法をご紹介します。試験対策を始めようと思い、大学 3 年生の秋頃に「秋田県の教職・一般教養」「秋田県の数学」「特別支援」の 3 つの問題集を購入しました。参考書は、購入していません。解けなくても、出題される問題を知っておくことに損はありません。しっかり解き始めたのは、4 年生の春からでした。周りに比べれば遅いほうかもしれませんが、集中力やモチベーションがそんなに持続しない人は、春からがっつり始める形でもいいと思います。欠かせないのは、面接練習です。自主ゼミをとっていない私は、ゼミの先生に声をかけていただいたり、数学専攻の親友たちに誘ってもらったりして、面接練習や模擬授業の練習を重ねました。

長くなりましたが、どの勉強法にも言えることは、「受験する県の過去問を解きまくること」と、面接でのスムーズな応対や模擬授業でのイレギュラーに対応できるように「友達と面接練習や模擬授業の練習をしまくること」だと思います。個人個人のペースでぜひ頑張ってください！

最後となりますが、私の大学生活は、さまざまな人に感謝しかない 4 年間でした。私たちを支えてくれた先輩、後輩、教授方をはじめ、特に同期の存在が大きかったと感じています。私自身、精神的に不安定な時期があり、大学に行くことが難しくなってしまったことがあります。誰にでも、メンタルが弱くなってしまう可能性はあると思っています。そんな時でも、黙って話を聞いてくれたり、ご飯や飲みに誘ってくれたりなど、私の扱い方がプロであったこの同期たちが居なければ、大学に戻れなかったと思います。本当にありがとう。友達 100 人とは言いません。大切なのは、数少なくても、頼れる友達や相談できる人を大切にして生活していくことだと思います。

保育者のたまごとして

こども発達コース４年次　奥寺ひより

いよいよ、春からの新生活に向けて本格的に準備をしていく時期になりました。4 年間の大学生活では、これから保育者として、一人の社会人として生きていくうえで大切なことをたくさん学ぶことができました。

日々の授業に加えて、こども発達コースでは各種免許や資格の取得に向けて、他コースと比べて多くの実習の機会がありました。様々な園や学校で実習をさせていただき、現場でしか得られない貴重な経験をすることができました。子どもたちの反応はとても素直で、自分の想像と違った反応に戸惑うこともありましたが、現場の先生方や一緒に頑張る実習生に支えられながら、毎日精一杯子どもたちや自分の保育について考えました。

毎晩書く日誌や活動の計画・準備など、大変だと感じることも少なくありませんでしたが、自分が用意した活動を子どもたちが楽しんでくれる喜び、子どもが一歩踏み出す瞬間に立ち会える嬉しさ、子どもと笑い合える幸せ…実習期間中に感じたことすべてが保育という仕事のやりがいだと感じました。4 年間を通して、幼いころから夢見ていた保育の仕事の魅力や重要性を改めて知り、春からの生活には不安と期待で胸がいっぱいです。

そして、私たちの大学生活を語るうえで外せないのが、新型コロナウイルスの影響です。4 年前の 4 月に秋田に来てからしばらく授業がなく、土地勘のない場所で友達もできず、やっと始まった授業も部屋に一人でパソコンに向かうのみという状態で、当時は大きな不安と（大げさかもしれませんが）孤独感があったことを覚えています。そして徐々に対面授業や課外活動ができるようになってからも、感染拡大によって急に大学に入れなくなり、たくさん練習した演奏会の本番ができないなど出鼻をくじかれるような思いもしました。誰かの指示に従うことしかできない自分や学生という身分の無力さを痛感した一方で、そうした状況で手を差し伸べてくれる人のあたたかさや人とのつながりの重要性も実感しました。

今となってはこうした経験の一つ一つが今後に生きると感じています。自分がしてもらって救われたことは、これから出会う子どもやその保護者、かかわる人一人ひとりに積極的にしたいと強く思います。保育者としてはまだまだ未熟ですが、この時期を大学生として過ごしたことを強みに、春から出会う人たちにあたたかいかかわりができるように頑張りたいです！

大学生活を振り返って

地域社会コース４年次　福士　藍

もうすぐ、大学生活が終わりを迎えます。５年間の学生生活は、「早かったけれど長かった」という印象です。５年間、というのも私は、編入生として秋田大学に入学しました。編入学は、２年次からの編入となるため、以前在学していた大学の期間２年間と、秋田大学での３年間も含めると５年になります。５年間の中で、多くの学びと経験の機会がありました。

特に秋田大学での３年間の生活を振り返ると、地域文化学科ならではの活動を通し、得たものがあるように感じます。特に、「地域学基礎」と「地域連携ゼミ」での活動が印象深いです。どちらもフィールドワークの形で、課題を設定し、実際に現地を訪れ、インタビュー・アンケート調査、過去の事例調査などをし、解決に向けた提案を行います。「ブラウブリッツ秋田の集客数を増やすには」と「矢島地区の活性化」について行いましたが、学生主体で企画運営を行うこともあり、学生のうちからこういった「考える力」と「実行する力」が身に着く良い機会となりました。フィールドワークを通しても、座学を通しても、地域に根差した学びをすることができ、地域に対する想いも持つことができました。

今でも編入学試験の日のことを鮮明に覚えていますが、「地域に関する学びがしたい」と、志望動機を述べたように、想像していた通りの学びをすることができました。

また私は、大学生活の中で非常に多く、かつ貴重な経験をすることができました。編入学試験をとってもそうですし、アルバイトやボランティア活動、短期留学といったたくさんのことを行うことができました。アルバイトに関しては飲食や接客のほか、大好きなアイドルに関わる仕事である、ご当地アイドルのマネージャー業務も行い、貴重な体験になったと思います。すべて、「学生の今しかできない」と感じ、行動してきましたが、経験してよかったと思うものばかりです。就職活動時でも、自身を深堀りされることとなりますが、このほかにも珍しい経験が多かったおかげか、有難いことにこれまでの経験をお話するだけで「面白い！」と言っていただいた場面がいくつもあります。

そこで大学生活を経て、自身の大切にしていきたい軸を見つけることができました。１つは「経験は財産になる」ということ。２つ目は「周りに感謝すること」です。さまざまな経験は自分を強くしてくれるような気持ちになれます。「あの時あれを乗り越えられたから大丈夫」と奮起させる場面が何度もありました。知識として身につくことも多く、糧として、自身の中に根付いている感覚が生まれました。また、なにかを行ううえで、一人だけ、ということはなかなかありません。誰かの協力で成り立っているため、周りに感謝することは不可欠だと感じる場面も多くありました。５年間の大学生活で出会った友人、ゼミやアルバイトを通して仲良くなったかけがえのない友人や、編入学試験を受験するにあたり、秋大のことを教えてくれた友人、合格発表の時に泣いて喜んでくれた友人など、たくさんの経験を通してたくさんの人の優しさと有難さに触れました。

これから社会人になるにあたり、不安も大きいですが、大学生活で得たものを思い出し、励んでいきたいです。後輩の皆さんも、経験を大事にすること、そこに関わってくれる人を大切にしながら、有意義な学生生活になることを願っています。

多様な価値観に触れ、自分の価値観が広がる学び

国際文化コース４年次　田口桜子

皆さんは何か選択で迷う事がありませんか。私は１年次後期のコース選択の際にたくさんたくさん迷った結果、興味・関心がある国際文化コースに所属しました。この選択が卒業する今となっては良い選択だった確信しております。今回は国際文化コースでの学びを少し紹介させていただきます。

私の卒業研究では中国近現代の文化・社会を中心とするゼミに所属し、「現代中国のパンダ外交」について研究をしました。皆さん、パンダをただ可愛い動物だと思っていませんか？中国ではこれまで友好関係構築のためにパンダを各国に贈呈・レンタルするパンダ外交が行われています。ふわふわとした愛らしいパンダは実は中国の政策と深く関わっているのです。この事実を受けてパンダを見る目が変わってきませんか？これは私が研究をする中でものの見方が変わった一例です。国際文化コースでは日々自分の無知さを痛感するとともに新しい世界を知る場でもありました。

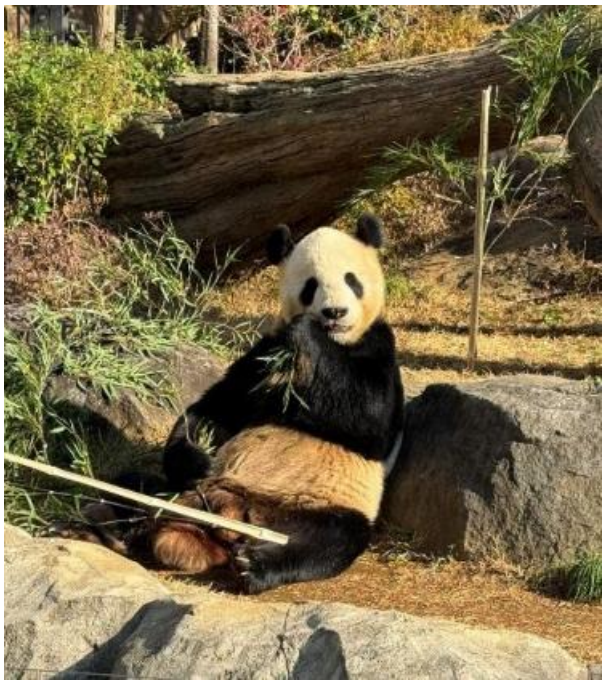
そして国際文化コースでは多様な映画を鑑賞し、新しい映画のジャンルにも触れました。特にアニエス・ヴェルダ映画監督の「顔たち、ところどころ」では映画らしさとホームビデオらしさの両方が感じられ、不思議な感覚になるドキュメンタリー映画でした。その中で社会批評・歴史批評をも描いていたため一番印象に残っている映画です。是非見てみてください、おススメです。

また、私は、映画鑑賞は好きでしたが、読書が好きではありませんでした。しかし、講義を通して読んだ『巨匠とマルガリータ』はロシアの生活スタイルや文化の多様性を感じるなど、いつの間にか読書が楽しくなりました。

さらに小説から歴史を学ぶこともありました。『敬んで姉妹に告げる』を読んで、これまでの中国人女性の境遇には衝撃を受けるとともに、中国人女性の強さには尊敬をしました。国際的な学びでは日本からの見方と日本に対する見方には大きな違いがあることに気づかされます。私は何度日本に偏った見方をしていたことに気づかされたことか…、しかしその違いに気づくとより学びが楽しくなります。

最後に私はコロナ禍で在学中の留学を実現できませんでした。留学できなかったことは心残りですが、国際文化コースで幅広い国の文化や歴史を学んだことで多様な価値観に触れ、自分自身の価値観も広がったと思っております。

卒業後はその価値観を実際に感じるため、学びを思い出しながらゆっくり旅行で巡るなど今後の楽しみにしていきます。



言葉の厚み

心理実践コース４年次　有原香乃

４年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。また、私たちの卒業をお祝いしてくださった皆様、本当にありがとうございます。これまでを振り返ってみると、たくさんの方々の「縁」があってこそ、いろんなことを楽しめた・挑戦できた大学生活だったなあと感じております。この寄稿も、たくさんの方々とのご縁が繋がって、書かせていただいているものです。私は本当に周りの方々に恵まれていて、感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、大学卒業にあたって最も印象深いものは、やはり私たち４年生には記憶に新しい卒業研究でしょうか。みんながいろいろな思いや志をもって取り組んでいた卒業研究ですが、私は「不登校」に絞って研究しておりました。それは、私がもともと不登校の経験があり、その経験を整理・還元するために大学を目指したからです。大学では、不登校支援のサービスや事業にもいくつか参加させてもらいましたし、保護者の方々とも接する機会をたくさん頂きました。そのような活動をさせてもらっている中で、やはり私が共感できることもあればそうでないこともあるし、私じゃ想像もできない出来事だってたくさんありました。つまり、子どもたちや保護者が向き合っている「不登校」は、「不登校」という言葉ひとつで表現はできないほど、大きく深い事象が重なって構成されているのです。

…実はこれって、よくよく考えてみれば、どんなことでも言えるんですよね。「ワイン」という言葉で例えてみましょう。ワインはお酒の種類で、主に白や赤や泡があって、甘さや辛さ、軽さや重さなどの違いがあって、産地もイタリアフランスドイツアメリカ…どこまでも掘り下げられますよね。何が言いたいかと言うと、「ワイン」や「不登校」という言葉ひとつで表されている事柄は、その言葉ひとつでは全く足りないほど、事柄としての厚みがあるということです。私は研究として、ワインではなくて不登校の厚みに着目してきたのですが、私の不登校経験はその一部でしかなくて、他にも様々な出来事や形があることを学ばせてもらいました。

大分脱線したような気もしますが…。人間は当たり前ですが、書き言葉と話し言葉を情報の主としていますよね。使い慣れた言葉の中で、気になるひとつを取って、その厚みについて考えられたこと、表現しきれない奥深くの文字を見つけられたこと、私の大きな成長であったことは確かでしょう。これを見ている在学生がどれほどいらっしゃるのかは定かではありませんが、どんな言葉の厚みを見たいか、研究したいか、見つけられるととってもいいんじゃないかな。

最後になりますが、これまで支えてくださった先生方や周りの方々、全てに感謝しております。そして、これから旅立つ４年生の皆様にとって、新天地が素敵な場所でありますように。

…ちなみに私はワインが大好きで、こちらは最近出会った素敵なワイン達です。これからはワインのお勉強も頑張ります。

学生生活の終わりに

大学院教職実践専攻カリキュラム・授業開発コース 2 年次　武石早穂

6 年間の学生生活が残すところあと 1 ヶ月ほどとなりました。卒業を目前にしてこのようなことを書くのは恥ずかしいのですが、私はつい最近、研究とはどういうものかということを掴み始めた気がします。そしてその奥深さや寛大さに驚きつつ、独特の魅力に惹かれています。これから県内の教員になりますが、私なりに続けていきたいと思っています。

今年度はそれぞれ専門の先生にご指導いただき、実践研究と量的研究を両立することができました。「こういうことを知りたいな･･･」とぼんやり思いつつ、どうすれば良いのか分からなかった入学当初。音楽教育を専攻している私にとって、今後の教員人生の希望となるような実践研究報告書をまとめられたことは未だに奇跡だと思っています。公立小学校のインターンシップでは、全学年の子どもたちと関わる機会をいただきました。その中で、私が一人の教員としてだけではなく、一人の人間として学校にいて良いのだと思うことができました。研究授業では、「面白い！」という子どもたちの笑顔を間近で見られることの喜びを感じることができました。激励してくださった多くの先生方、この 2 年間を乗り越えるエネルギーをくれた全ての子どもたちに深く感謝申し上げます。

目の回るような毎日でしたが、いつも院生の皆さんの支えがありました。院生室に行くと、肩にずっしりと乗っかっていた悩み事がいつの間にか手のひらサイズになるくらい、私は救われていました。夏に十和田ルームの皆で遊びに出かけたことを思い出します。BBQ やキャンプファイア、流しそうめん･･･とても幸せな時間でした。私の一生の思い出です。

ところで大学院進学後、なぜか食の好みがガラッと変わりました。おいしいなと思うものが急に増えたのです。“You are what you eat” と言いますが、私自身の何かがものすごい勢いで変わっていったように思います。そして、いまは学部を卒業した時の何倍も清々しい気持ちになっています。2 年間音楽教育に向きあったからなのか、教職を目指す自分を自分が認められるようになったからなのか、よく分かりませんが、次の壁に当たるまでは大学院で学んだ今の生き方を大切にしたいと思います。

大学院ではたくさんの素敵な出会いがありました。いつかどこかで “また” 会える、再会以上の喜びはないと思います。私は今後も秋田に居る予定です。おいしいなと思うものを増やしながら、ふるさとで学び続けていきます。

第 10 期学生協議会が発足

2014 年度に発足した学生協議会は、10 年目を迎え、第 10 期がスタートしました。まだ学生委員の代表・副代表は決まっていませんが、決まりましたらお知らせします。学生の学年表示は、2024 年度のものとなっています。

学生協議会委員名簿　R6.1～R6.12

No.	所属委員会等	氏　名	摘　要	備　考
1	学部長が指名する学部長補佐	※担当教職員は未定のため、新年度にお知らせします。		
2	教務学生委員会長			
3	学務委員会長			
4	広報委員会長			
5	その他議長が必要と認める者			
6	学務担当総括主査または主査			
7	教育文化学部事務部			

学生委員

No	学科・コース	学年	氏　名	フリガナ	
1	教育実践コース	2	小田島　陸	オダジマ　リク	
2	英語教育コース	2	齋藤　実蘭	サイトウ　ミラン	
3	理数教育コース	2	浅野　巴	アサノ　トモエ	
4	特別支援教育コース	2	内海　睦	ウツミ　ムツキ	
5	こども発達コース	2	高谷　美智瑠	タカヤ　ミチル	
6	地域文化学科	2	近藤　風花	コンドウ　フウカ	
7	地域文化学科	2	安田　佳恵	ヤスダ　カエ	
8	地域文化学科	2	山口　千颯	ヤマグチ　チハヤ	
9	教育実践コース	3	工藤　凱	クドウ　カイ	
10	英語教育コース	3	佐々木　萌	ササキ　モエ	
11	理数教育コース	3	中野　大誠	ナカノ　タイセイ	
12	特別支援教育コース	3	田口　龍大	タグチ　リュウダイ	
13	こども発達コース	3	小舘　孝之介	コダチ　コウノスケ	
14	心理実践コース	3	井出　愛弓	イデ　アユミ	
15	国際文化コース	3	佐々木　彩乃	ササキ　アヤノ	
16	心理実践コース	3	柳田　実海	ヤナギダ　ミミ	
17	教育実践コース	4	相馬　慈	ソウマ　イツム	
18	英語教育コース	4	長谷部　ひなた	ハセベ　ヒナタ	
19	理数教育コース	4	伊藤　彩花	イトウ　アヤカ	
20	特別支援教育コース	4	藤原　宙詩	フジワラ　チュウタ	
21	こども発達コース	4	高橋　歩花	タカハシ　アユカ	
22	地域社会コース	4	沼倉　大真	ヌマクラ　ダイシン	
23	国際文化コース	4	藤田　菜々子	フジタ　ナナコ	
24	心理実践コース	4	野口田　萌子	ノロタ　モエコ	
25	心理教育実践専攻	院２	森　智基	モリ　トモキ	
26	教職実践専攻	院２	安藤　のどか	アンドウ　ノドカ	
27	心理教育実践専攻	院１	有原　香乃	アリハラ　カノ	第3条第10号委員

令和５年度の附属特別支援学校と学部・大学院との連携について

教職実践専攻／附属特別支援学校　前原和明

現在、附属特別支援学校は、中期目標に基づいて策定された「多様な教育的ニーズのある子どもたちに対する相談・支援体制を充実させ、心のバリアフリー教育、交流及び共同学習等を推進し、インクルーシブな学校園の学習環境を整備する。また、大学キャンパスが、障害者理解と地域の障害者雇用のモデルとなるよう、障害のある児童生徒の授業やインターンシップの場として積極的に活用する。」との中期計画の達成に向けて様々な教育実践を行っています。特に、附属特別支援学校では、近年、「児童生徒の生涯学習力の育成」を継続的なテーマにしており、先に挙げた中期計画に「生涯学習力」というキーワードと関連づけた取組みも行っているところです。

本報告では、この中期計画に関連して実施した令和５年度の附属特別支援学校と学部・大学院との連携活動の中で、特に学部・大学院の先生方から大きな協力を頂いた３つの取組みについて報告します。

一つ目が、「秋田大学キャンパスツアー」の実施です。本校は、これまで秋田大学特別支援教育コースが中心となって行ってきた「障害者の生涯学習講座」に協力をしてきました。これまでの実施状況から、課題として、卒業後に社会参加する附属特別支援学校の生徒が、講座を提供する学部・大学院についてのイメージを持っていない現状がありました。この課題改善に向けて、生徒の生涯学習への興味・関心の向上を目指した活動としてキャンパスツアーを行っています。キャンパスツアーでは、教育学部棟などを見学させていただきました。また、秋田大学名誉教授の武田篤先生の「聴覚障害教育総論」（3-145 教室）と教育学研究科　教授の長瀬達也先生の「美術科教育学／美術教育学」（3-146 教室）の講義の一部を参観させていただきました。参観した生徒は、大学生活について理解することができ、学びへの興味・関心を高めたようでした。

二つ目が、高等部の生活単元学習（D スタディ）における調理学習等において、教育文化学部　准教授の堀江さおり先生にご助言を頂きました。生涯学習力の向上に向けた様々な学習を行っている生徒にとって、特に堀江先生の専門的知見は、実践的で非常に役立つものだったようです。授業後に自宅で調理に取組むなどの生徒の主体性を引き出すきっかけになったと思っています。

三つ目が、小学部の授業における外国語学習において、教育文化学部　准教授の若有保彦先生にご協力を頂きました。若有先生の支援があり、小学部の児童たちは、外国語に対する親しみと関心を持つことができたようでした。

学部・大学院との連携は、児童生徒の教育、附属特別支援学校の研究実践などにおいて、非常に有用なことと捉えております。更なる展開に向けて、継続的な連携をしていきたいと考えております。

９回　模擬授業フェスティバルを開催

2024 年２月 20 日に、第９回模擬授業フェスティバル（主催：附属教職高度化センター）が開催されました。2015 年度から続くこのフェスティバル、今回も学内外から４グループのエントリーがあり、時間をかけて準備した模擬授業が演示されました。教育文化学部からのエントリーは，残念ながら１グループでした。日頃の授業の中でも多くの模擬授業の機会があると思いますが、ぜひこのような舞台を利用して、授業の力を磨いてもらいたいと思います。教育実習等の経験を経て得られた自分なりの課題を、このフェスティバルにぶつけてください。

審査結果は今回も僅差でした。最優秀賞，優秀賞のグループの皆さんから，感想をもらいましたのでご紹介します。

＜審査結果＞

最優秀賞「大坂あゆみ」
優秀賞「空々しい修正力」
優良賞「数理アナリシス」「数理科学」

最優秀賞　「大坂あゆみ」
秋田県立大学生物資源科学部３年次
大坂あゆみ

今回は模擬授業フェスティバルを開催していただき，ありがとうございました。

互いに違う学校種や学部の模擬授業を見せていただけたことで新たに得た学びも多く，更に良い授業づくりに繋げて行きたいと思うことが出来ました。また，授業にかける準備時間の多さに気づき，これまで先生方がどんな気持ちで授業を準備していたのか考える機会となりました。これまで関わってきた先生方が，生徒達の顔を思い浮かべながら準備をしていたと思うと，真面目に授業を受けなかった苦い思い出が蘇ってきて，思わず申し訳ない気持ちにもなりました。

話は変わりますが，今回演示した「農業」という教科はなじみのない教科だったと思います。しかし，生活の中で必ず関わる食や水などについて詳しく学ぶことが出来る教科であると同時に，教室の中あるいは学校生活の中で授業が完結するのではなく，街中で「あの時育てた植物だ！」「これ授業で言ってた！」とふと気づく瞬間までが授業である教科だと私は考えております。

現在，農業高校に入学する生徒の内，農業を仕事にしたいと思っている生徒はほぼゼロに近い状況となっています。そんな中でも，実習や授業を通して少しでも「農業っていいかも」と感じてもらえるよう，教師力を高めながらも生徒の多様化に対応できるそんな教員を目指して頑張ります。

改めまして，模擬授業フェスティバルという機会を与えていただき，ありがとうございました。これからもこのフェスティバルが続いていくことを切に願っております。

優秀賞　空々しい修正力
教育実践コース３年次　本城谷雪乃

模擬授業フェスティバルに参加して，子どもが興味・関心をもって学習に取り組むことができるようにするには，教師として授業で，どのような工夫したり，教材をもってきたりすればよいのかなどを，教育実習などで得た経験や自分自身の課題と向き合って今回の授業をつくることができ，改めて授業をつくることの大変さや楽しさを感じられた良い機会となりました。また，他のグループの授業の発表に参加して，実物教材をもってきていたり，子どもにとって身近なことを授業の題材として構想していたりして子どもの興味を引く授業として，とても勉強になりました。

今回の模擬授業を考えたり，実践したりすることを通して，教師は子どもが主体的に学習に取り組むことができるように，授業内外で様々な工夫や手立てなど学びたくなる環境づくりを目の前の子どもの視点に立って考え，実践していくことがとても大切だということを感じ，鎌田先生が仰っていたように「授業は子どもがいてこそ成り立つ」という事を再確認することができました。

今回の模擬授業フェスティバルでは，自分たちの授業づくりや他のグループの授業などから多くのことを学ぶことができ，また自分自身の新たな課題点も見つけることができました。今回の経験をこれからの授業づくりに活かしていきたいと思います。

教育実践コース３年次　片平愛弓

まずは，「第 9 回模擬授業フェスティバル」を開催してくださったことに感謝申し上げます。

今回の模擬授業では，「韓国と日本の関わり」をテーマした授業を行いました。新型コロナウイルスが緩和し，海外から日本に来る観光客の数だけではなく，日本に住む外国人の数も増加傾向にあります。このような現状から，自国の文化だけではなく，他国の文化を理解し，尊重する態度が大切だと考えました。しかし，実習を通して小学校６年生の実態では少し難しいと考え，他国の文化に興味を持つことを授業の目標として，学習者の実態に合わせて導入部分で興味を引き出すように工夫しました。

実際の模擬授業では，導入部分を実演しました。授業の内容として，訪日観光客の中でも韓国が最も多く，韓国について児童が知っていることを聞き出して，本時のめあてを設定しました。実演では，児童との対話を中心に授業を進め，明るい声と話し方を工夫して模擬授業を行いました。本番は，今までのどの模擬授業より緊張しましたが，楽しみながら行うことができたと思います。

教育現場でも外国にルーツを持つ児童が増えています。自国の文化を大切にしながら他国の文化を理解，尊重しながら関わることが大切だと考えます。今回の模擬授業だけでなく，他の模擬授業でも自分のルーツを活かした授業を行ってきました。今回，様々な視点から評価されたことは貴重な経験となりました。また，他の参加者の授業を参考にしながら，今後も授業の技術を向上していきたいと思います。

第 15 回あきたの教師力高度化フォーラムを開催

2 月 16 日（金）と 17 日（土）の 2 日間、教育文化学部を会場として、第 15 回あきたの教師力高度化フォーラムが開催されました。参加者は、おおよそ 200 名で、17 日午後のフォーラムのみは zoom 参加を認めていて、44 名が zoom 参加しました。

16 日の午後は学部卒院生の実践研究報告（修了生）、ポスター発表（修了生以外）が行われ、17 日の午前は学校マネジメントコースの現職教員院生の実践研究報告の発表が行われました。

16 日の午前中は、秋田県総合教育センターとの連携事業で、学部の教職発展演習の履修学生グループの代表による発表、そして、総合教育センターの研修員の研究発表が行われました。

17 日の午後は、ポストコロナの今、学力と公教育を考える」と題した講演が、大阪大学大学院人間科学研究科の志水宏吉教授から行われ、その後、「探究する子どもを育てるために必要なこと－『学力』のその先へ－」と題したシンポジウムが行われました。シンポジストは、秋田県教育庁の和田渉教育次長、教育専門監の佐々木真智子先生で、コーディネーターとして、本学研究科の細川和仁先生が参加し、志水先生はコメンテーターとして参加しました。

NITS・秋田大学教職大学院コラボ研修

令和の日本型学校教育の構築
「探究する子どもを育てるために必要なこと―『学力』のその先へ―」

第15回
あきたの教師力高度化フォーラム

本教職大学院では、本フォーラムを院生が研究した成果を発表する機会としております。今年度も、学校マネジメントや主体的・対話的で深い学びなどの現代的な教育課題に基づく様々な発表を行う予定です。
2日目には、志水宏吉氏による講演「ポストコロナの今、学力と公教育を考える」、並びに「令和の日本型学校教育の構築 探究する子どもを育てるために必要なこと－『学力』のその先へ－」と題したシンポジウムを開催します。
1日目と2日目午前の発表会は会場参加、2日目午後の講演とシンポジウムは会場参加とZoom参加のハイブリッド型による公開となります。多くの皆様の参加をお願いいたします。

講演講師 志水 宏吉氏

期 日
令和6年 2月16日(金)17日(土)

会 場
秋田大学60周年記念ホール
教育文化学部3号館145教室 他

対 象
全国の教職員・研究者・教育委員会指導主事・研修員・教員志望学生・院生等

日 程
1日目 2月16日(金)
9:00 開場・受付(秋田大学60周年記念ホール前)
9:30 開会行事
9:50 秋田県総合教育センターとの連携による発表
・教職発展演習受講者(学部生)の発表
・秋田県総合教育センター研修員の発表
12:00 昼食・休憩
13:00 研究中間発表(学部卒院生)
14:50 研究成果発表Ⅰ(学部卒院生)

2日目 2月17日(土)
9:30 開場・受付
10:00 研究成果発表Ⅱ(現職教員院生)
11:40 昼食・休憩
12:45 講演
「ポストコロナの今、学力と公教育を考える」
講師 大阪大学大学院 人間科学研究科 教授 志水 宏吉
14:10 シンポジウム
令和の日本型学校教育の構築
「探究する子どもを育てるために必要なこと
―『学力』のその先へ―」
シンポジスト 秋田県教育庁 教育次長 和田 渉
由利本荘市立鮎川小学校 教育専門監 佐々木 真智子
秋田大学大学院 教育学研究科 准教授 細川 和仁(コーディネーター兼任)
コメンテーター 志水 宏吉(講演講師)
15:45 閉会

※計画の変更がある場合には、本学教育文化学部HP(https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/) に掲載します。
【申込方法】裏面をご覧ください

【主催】秋田大学教職大学院
【共催】秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター／秋田大学教職課程・キャリア支援センター
【後援】秋田県教育委員会／秋田市教育委員会

お問合せ先
秋田大学教育文化学部総務担当
〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
018-889-2509
kyosou@jimu.akita-u.ac.jp

秋田県総合教育センター阿部所長の来賓挨拶

志水宏吉先生のご講演

教職発展演習履修学生の発表②

シンポジウムの様子

秋田県総合教育センター研修員の研究発表

教職発展演習履修学生の発表①

教職大学院修士１年次院生のポスター発表

退任される先生方からのメッセージ

今しかできない「今」

教職実践専攻　鎌田　信

学生時代山岳部に所属し各地の山を渡り歩いた日々を思い出します。まだ、キスリングを背負う者も多い頃、ザックは高嶺の花だった MILLET を、アルバイトをして購入し、登山靴を手に持ち、サンダル履きで列車に乗り込むことで悦に入っていた時代でした。目的の地へは夜行列車で通路に雑魚寝することも厭わず出かけたものです。今では考えられないことですが、当時の山岳部の学生達は座席に座ることが出来なければ通路に新聞紙を敷いて寝るなんてことは朝飯前。どういうわけか山の格好をするとそんなことが何でも出来てしまう気分になったものでした。朝早く、富山駅に着くと、同じような格好をした若者が駅の構内でたむろしており、俺たちはこれから北アルプスへ行くんだオーラをあちこちで発していたものでした。富山駅からは富山電鉄に乗り換え立山駅へ、そこから立山ケーブルで美女平に到着後、またバスを乗り継ぎ室堂まで。ようやく剱岳登山の入り口に立ち「よし」と自分に気合いを入れ歩き出したことを覚えています。重いザックに慣れるまで苦しい歩きになりますが、一定の時間が経過すると身体は山歩きに適応し、心地よい登山となります。途中、雷鳥を見つけながらテントサイトの剱沢に到着。テントを張り、早い夕飯の支度をします。夕飯は飲んで騒いで、でも「ちゃっ」と区切りをつけ明日に備え就寝。次の朝、暗い内に起きだし、インスタントラーメンに切り干し大根を入れた朝食を食べ、アタックザックだけを背負い、ヘッドライトをつけて暗い内に出発。夜が少しずつ明けて足下がライトなしでも見えるようになり、「カニの横ばい」などと名前がつくような危険個所を越え、ようやく頂上に到着。後はご来光を待つのみ。雲海の境界から太陽の光が差し込み、まさしくご来光とは良く言ったものです。この瞬間のために山に登ってきたのでした。

あれから、40 数年の月日が経過しましたが、あの頃見た剱岳のご来光は今でも鮮明に覚えています。若い頃の経験は特に色鮮やかに記憶に残っています。今振り返るとよく登れたものだと人ごとのように感心してしまいます。今、また、「剱岳に登ろう」と言われても登れないだろうし、たとえ登頂したとしてもきっと同じ感動は得られないでしょう。大学時代の若い感性はやはり何かが違うものと思っています。

アメリカの文化人類学者のマーガレット・ミードが「未来とは今である」という名言を残しています。今の行動が未来を作ることや過去も未来も今の中にあることを示し、今を大切に生きることが大切であるというメッセージを込めています。学生の皆さんは、今しか経験出来ない「今」をもっています。大学時代の「今」は本当に貴重な時間なのです。「進取の気概」をもって大学時代の「今」を過ごして欲しいものです。

退職を前に少しばかり人生経験の長い先輩より。

皆さんとの思い出を胸に

教職実践専攻　秋元　卓也

コロナ禍の苦しく長い月日。友や先生方との交流も奪われてしまったかのようでした。しかし、皆さんの輝きは、今この時に収斂を迎え一気呵成に花開こうとしています。卒業生や修了生のこれからの活躍を楽しみにしています。

～季節映ゆ～

秋　多

「春に立つ」

憧れを支えに耐えて待つ　桜の季節をともに過ごせたことは幸いでした

紅潮する頬に　初々しくも青年が志に目覚めた時の昂ぶりを見たのですから

「夏に挑む」

高き山並みに湧き上がる　雲の峰の季節をともに過ごせたことは幸いでした

空を仰ぐがごとき視線の高さに　目指す者の決心を見たのですから

「秋に和す」

色なき静寂に連れられた　末枯れの季節をともに過ごせたことは幸いでした

頑なな思いをほぐしてあげられる　陽だまりの心根を見たのですから

「冬に虔む」

少しの先も見通せない　雪風巻く季節を共に過ごせたことは幸いでした

氷からの拒絶に自然を畏れ　人は小さきものと気付く暁りを見たのですから

小唄は一例ですが、これからは何かしら日本文化に触れながら過ごしたいと思います。五年間、志の灯火を掲げる方々と過ごすことができましたことは、望外の幸せでした。感謝申し上げます。

この３年間に感謝

教職実践専攻　櫻庭直美

この３年間、恵まれた環境の下で仕事をさせていただきました。前職は教育行政職でしたので、戸惑うことや不慣れなことが多かった中、教員の皆様や事務部・技術部等の職員の皆様にその都度助けていただき、今日に至ることができたと思っております。これまでの御対応に、心より感謝申し上げます。また、教職大学院生や学部生の皆さんとの出会いも、とても新鮮なものでした。私は、院生や学部生の皆さんに対して、“大学教員と学生”というよりも、気が付けば、“小・中学校等で働く教師の先輩と後輩”という意識で接していたように思います。将来、教育に関わる仕事に就こうとしている皆さんの姿に接し、「これからの学校教育を頼んだぞ」という願いを託し期待していたのだと思うのです。

先日、ある授業の後、学部生に「覚えていますか？」と声を掛けられました。その学生さんは、私が前年に県内の高校で行った出前講義に参加してくれた方でした。私は思いがけなく再会できた「つながり」に驚くとともに、その学生さんが教職に就きたいという意志をもち学んでいる姿を目の当たりにし、「これぞ教師の醍醐味」と大きな喜びを感じたのでした。教師という職業は、人との「つながり」を強く感じることのできるものであると考えます。その「つながり」は、今この時点だけのものではなく、将来にわたって、ときに目に見えたり見えなかったりしながら、途切れるものではないと思っています。大学で過ごした３年の間に紡いだ教職員の皆様、院生・学部生の皆さんとの「つながり」に感謝しつつ、これからも大切にしてきたいと考えます。これまでお世話になりましたことに重ねてお礼申し上げるとともに、この先もどうぞよろしくお願いいたします。

初めての大学教員生活

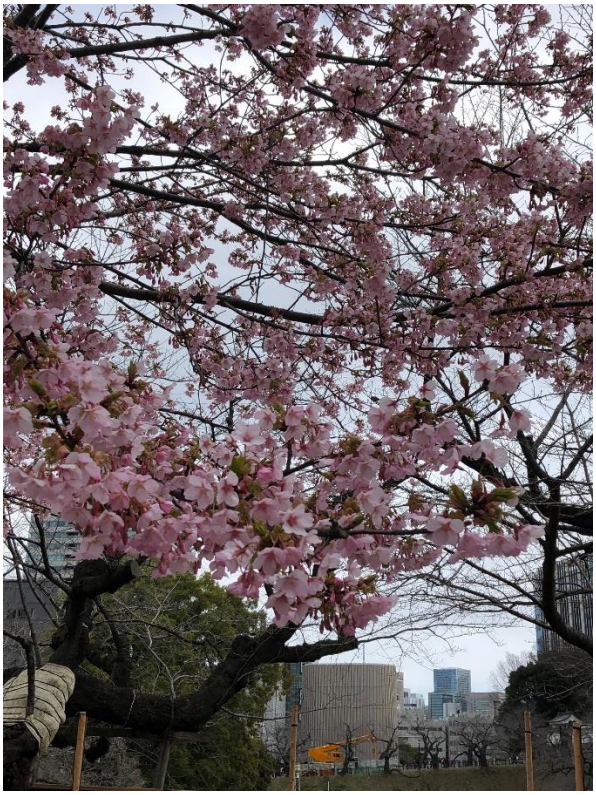
地域文化学科　石黒武秀

私は秋田大学教育文化学部に 2021 年 10 月 1 日に着任しました。当時は、Teaching Assistant として働いた経験があるものの、大学教員として本格的に働いたことがない状況でした。その中で、私は様々な人に助けられ、今日まで働くことができています。

まず、秋田大学に着任してからは授業準備に苦労しました。授業の計画だけでなく、秋田大学独自の授業に関するルールや方針など覚えなければならないことがたくさんありました。そのような中で、臼木先生と林武司先生は私の授業に関する相談を受けてくださり、授業の運営やシラバスの書き方に関する注意点、コロナ禍での授業運営の方法をご教示いただきました。そのおかげで、シラバス作成や授業運営はとてもうまくいき、授業アンケートの評判も良いものでした。御二方の忙しい中、私の相談にのってくださり、心から感謝しています。

また、授業やゼミの課題などをまじめに取り組んでくれた生徒方にも助けられたと感じています。特に、最初の卒業研究プレゼミのゼミ生としてゼミに入ってくださった生徒さんには難しい課題にチャレンジしてもらったと思います。卒業研究では生徒さんとの相談の結果、「秋田新幹線の観光への効果」について研究することになりました。その過程で、秋田県が公表している市町村別の観光客や宿泊者数のデータを集めてきてくれたり、ゼミ以外の授業であまり扱われていないデータ分析をやってもらったりしました。ゼミでは生徒さんの真摯な取り組みのおかげで、指導を円滑に進めることができ、論文が立派なものとなりました。生徒さんの真摯で一生懸命な姿勢に大変感謝しております。

私は秋田大学での教員生活の中で多くの方々に支えられてきました。今後とも秋田大学での経験を生かせるように教育や校務に尽力いたします。



学部・研究科の活動（2024 年 1 月～2 月）

【全学】
1/13-14：大学共通テスト実施
1/18：男女共同参画シンポジウム
2/25-26：前期日程実施

【学部】
1/16-17：あきたの教師力高度化フォーラム
2/13：第３回地域連携セミナー
2/20：模擬授業フェスティバル

【教育学研究科】
2/28：教職大学院ＦＤ

【附属学校園】
1/27：附属特別支援学校公開研究協議会
2/14：附属学校学部共同委員会総会・部会・研修会
2/19：附属学校外部評価実施

発行　**秋田大学教育文化学部／教育学研究科**
〒010-8502　秋田県秋田市手形学園町１－１　　TEL 018-889-2509　FAX 018-833-3049
教育文化学部・教育学研究科ＨＰ　http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/
学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html
教職大学院通信「暁鐘の音（かねのね）」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html
＊誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌（1910 年制作）を聴くことができます。
http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧下さい。